

ニッセイ基礎研究所・経済調査レポート

No.2008-03

関西の輸出の特徴と最近の動向

2008年6月

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門

主任研究員 小本 恵照 (こもと けいしょう)

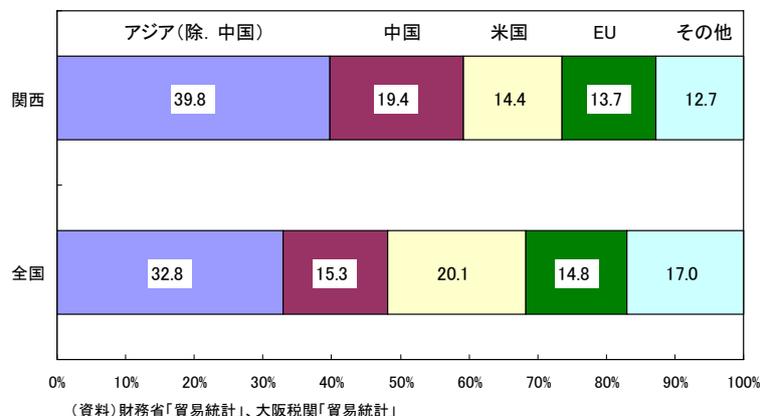
(03) 3512-1834 komoto@nli-research.co.jp

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 3F

(要旨)

- ・ 関西の輸出は、アジアへの依存度が大きいことが大きな特徴である。特に、近年は、中国に対する依存度が高まっている。
- ・ 足元の輸出は米国経済の減速を主因に伸びは鈍化している。ただし、中国を中心とするアジアに対する輸出は底堅く推移している。
- ・ 今後については、輸出の約6割を占める中国を含むアジア経済が、引き続き順調に拡大すると見込まれることから、輸出が大きく落ち込む可能性は低いと考えられる。このため、関西経済は、輸出の下支えによって全国に比べると底堅く推移すると予想する。

関西と全国の輸出相手国シェアの比較 (2007年)



(お願い)当レポートは研究員による試論であり、記載内容はいかなる契約の締結や解約をも勧誘するものではありません。
(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)

1. はじめに

わが国の経済はこれまで比較的順調な景気回復を続けてきたが、サブプライム問題を主因とする米国の景気減速や原材料・原油高の影響を受け、回復に翳りがみられるようになってきている。今回の景気回復が主として外需の伸びに支えられてきたことを踏まえると、今後の貿易動向が注目される場所である。

こうした認識を踏まえ、本稿では関西経済に着目して、その輸出構造の特徴を明らかにするとともに、足元の輸出動向と今後の見通しについて検討することにした。また、参考として輸入の動向にも触れることにしたい。

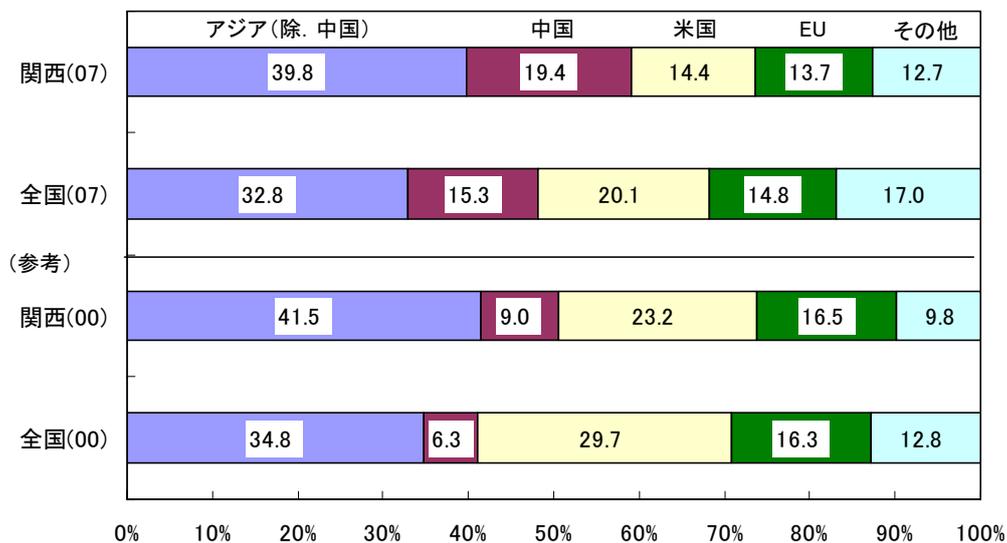
2. 関西経済の輸出動向

2.1. 輸出相手国別の構造

全国の2007年の輸出相手国シェアをみると(図表1)、アジア(除. 中国) 32.8%、米国 20.1%、中国 15.3%、EU 14.8%となっている。これに対し関西は、EU 向けの比率は全国と大差ないものの、アジア(除. 中国) 39.8%、中国 19.4%、米国 14.4%となっており、米国への依存度が相対的に低く、アジアと中国への依存度の高いことが大きな特徴となっている。

2000年から2007年にかけての変化については、関西および全国ともに米国への依存度が低下する一方で、中国への依存度が高まっており、わが国の輸出に与える中国の影響力が着実に大きくなっている。

図表1 関西と全国の輸出相手国シェアの比較



(資料) 財務省「貿易統計」、大阪税関「貿易統計」

2.2. 貿易品目別の輸出動向

輸出品目からみた関西経済の特徴は、電気機器、原料別製品、一般機械、化学製品の構

成比が全国に比べ高い一方で、輸送用機器のシェアが全国に比べ非常に低いことである（図表 2）。なお、原料別製品には、鉄鋼、繊維、紙、非鉄金属、金属製品、ガラス、ゴム製品などが含まれる。関西経済は、輸送用を除く機械産業や素材型製造業の輸出により大きな影響を受ける貿易構造となっている。この要因としては、地域の GDP に占める輸送用機器のシェアが小さく、化学や一般機械のシェアが高いという産業構造の特徴を挙げることができる（図表 3）。ただし、電気機器のシェアは全国に比べるとむしろ低く、関西の電気機器メーカーが全国に比べ輸出志向が高いことが推測される。

なお、2000 年から 2007 年にかけての変化については、関西経済および全国のいずれについても、電気機器のシェアが低下していることが特徴である。これは、わが国の電気機器産業の国際競争力の低下を反映した影響が大きいと考えられる。

図表 2 関西と全国の輸出品目の内訳

	関西		全国	
	2000年	2007年	2000年	2007年
化学製品	9.4	11.5	7.4	9.2
原料別製品	n. a.	15.8	n. a.	11.8
一般機械	24.6	23.1	21.5	19.8
電気機器	33.4	28.9	26.5	20.2
輸送用機器	5.2	5.7	21.0	24.8

（資料）財務省「貿易統計」、大阪税関「貿易統計」

図表 3 各製造業の GDP 構成比

	近畿	全国	(参考：東海)
食料品	12.2	12.0	8.4
繊維	1.3	0.8	0.9
パルプ・紙	2.2	2.4	2.3
化学	10.3	8.6	4.8
石油・石炭製品	2.7	2.8	0.6
窯業・土石製品	2.8	3.2	3.8
一次金属	8.5	7.4	5.2
金属製品	7.9	6.1	5.0
一般機械	14.6	10.9	10.6
電気機器	14.0	15.6	13.9
輸送用機器	5.9	13.4	31.6
精密機械	1.5	1.5	0.9
その他の製造業	16.2	15.2	12.1
製造業全体	100.0	100.0	100.0

（資料）内閣府「県民経済計算年報」

2.3. 国別品目別の輸出動向

国別品目別の輸出は図表 4 のとおりである。輸出相手国間について輸出品目のシェアを比較すると、関西、全国とも電気機器と原料別製品についてはアジアおよび中国向けで相対的にシェアが高く、一般機械については米国と EU 向けで相対的にシェアが高い。輸送用機器のシェアは、全国の米国および EU 向けにおいて非常に大きい。なお、電気機器の内訳をみると、アジア向けでは半導体電子部品や IC の比率が高いという特徴がみられる。

2000 年から 2007 年にかけての変化については、関西と全国では違いがみられる。関西では、中国向けで電気機器のシェアが高まったが、全国ではその傾向はみられない。中国経済の拡大が続く中で、中国での電気製品の生産向けの部品供給が増加していることがそ

の要因と考えられる。関西では電気機器に関して中国との関係を全国以上に強めている。一方、全国では米国と EU 向けで輸送用機器のシェアが高まっている。

図表 4 国別にみた輸出品目の構成比

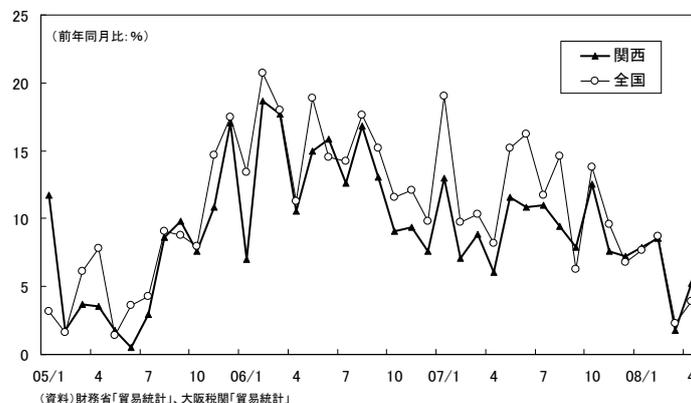
[関西]					[全国]				
2007年					2007年				
品目	アジア	うち中国	米国	EU	品目	アジア	うち中国	米国	EU
化学製品	12.1	11.5	10.0	12.7	化学製品	13.8	14.1	4.9	7.0
原料別製品	18.8	19.4	10.3	8.4	原料別製品	16.6	15.4	5.9	6.5
一般機械	19.6	19.5	28.6	25.1	一般機械	19.0	18.6	21.0	26.3
電気機器	31.8	32.4	25.1	29.1	電気機器	25.8	27.4	15.6	20.7
半導体等電子部品	12.9	9.9	6.1	8.5	半導体等電子部品	10.7	9.3	2.2	3.7
I C	9.3	6.7	3.7	1.8	I C	7.5	6.9	1.4	1.7
輸送機器	2.3	0.9	7.6	9.5	輸送機器	6.9	6.4	40.8	26.0
2000年					2000年				
品目	アジア	うち中国	米国	EU	品目	アジア	うち中国	米国	EU
化学製品	9.2	9.3	9.9	10.5	化学製品	10.7	13.1	4.5	6.6
原料別製品	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	原料別製品	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
一般機械	23.5	19.3	25.3	25.0	一般機械	21.4	19.5	22.0	25.4
電気機器	33.9	25.0	33.6	36.6	電気機器	32.3	27.5	23.2	27.5
半導体等電子部品	14.3	7.1	10.0	8.6	半導体等電子部品	14.7	7.9	5.2	6.2
I C	8.2	3.2	6.3	4.1	I C	9.5	4.4	3.6	3.8
輸送機器	2.8	0.6	6.2	7.1	輸送機器	5.9	3.9	30.7	20.0
変化[2007年-2000年]					変化[2007年-2000年]				
品目	アジア	うち中国	米国	EU	品目	アジア	うち中国	米国	EU
化学製品	2.9	2.3	0.0	2.2	化学製品	3.1	1.0	0.4	0.4
原料別製品	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	原料別製品	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
一般機械	-3.9	0.3	3.3	0.1	一般機械	-2.4	-0.9	-1.0	0.9
電気機器	-2.2	7.4	-8.5	-7.5	電気機器	-6.5	-0.1	-7.6	-6.8
半導体等電子部品	-1.4	2.8	-3.9	0.0	半導体等電子部品	-4.0	1.4	-3.0	-2.5
I C	1.0	3.5	-2.6	-2.3	I C	-2.0	2.5	-2.2	-2.1
輸送機器	-0.5	0.2	1.4	2.4	輸送機器	1.0	2.5	10.1	6.0

(資料) 財務省「貿易統計」、大阪税関「貿易統計」

2.4. 足元の輸出動向

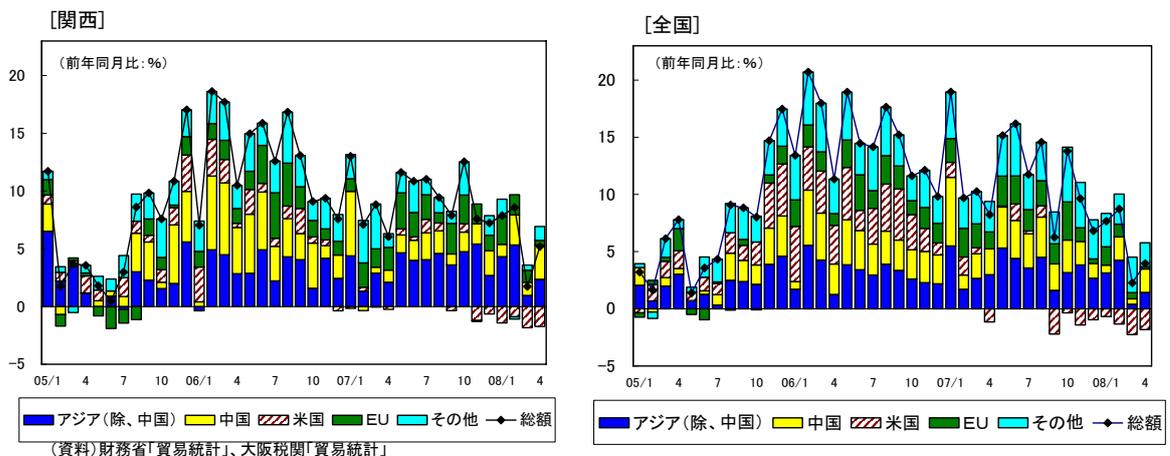
足元の輸出の動向をみると、関西、全国ともに 2006 年前半に前年同月比 15% を超える高い伸びを示したが、その後は徐々に伸びは低下している（図表 5）。全国と関西を比較すると、2006 年から 2007 年半ばまで、全国の伸びが関西を上回る状況が続いていた。特に、2007 年前半は、EU やアジア向けの自動車輸出が伸びを牽引した。しかし、米国のサブプライム問題に伴う米国経済の減速などから、2007 年後半からはほぼ同様の伸びとなり、直近の 4 月では関西が全国を上回るようになった。

図表 5 関西と全国の輸出の伸びの比較



この要因をみるために、輸出相手国別の寄与度を関西と全国で比較すると（図表 6）、米国向けの輸出の減少が主たる要因となっていることがわかる。全国では 2006 年は米国向け輸出が高い伸びを示したが、2007 年になると、関西より早い時期から輸出減少の要因となっている。関西より米国への貿易依存度が大きな全国では、米国経済の減速がより大きな影響を輸出に与えている。一方、中国向けについては、2008 年に入り輸出の伸びに対する寄与度は関西が全国に比べ大きく、好調な中国経済は関西の輸出を下支えしている。

図表 6 輸出総額の推移と相手国別寄与度



3. 今後の見通し

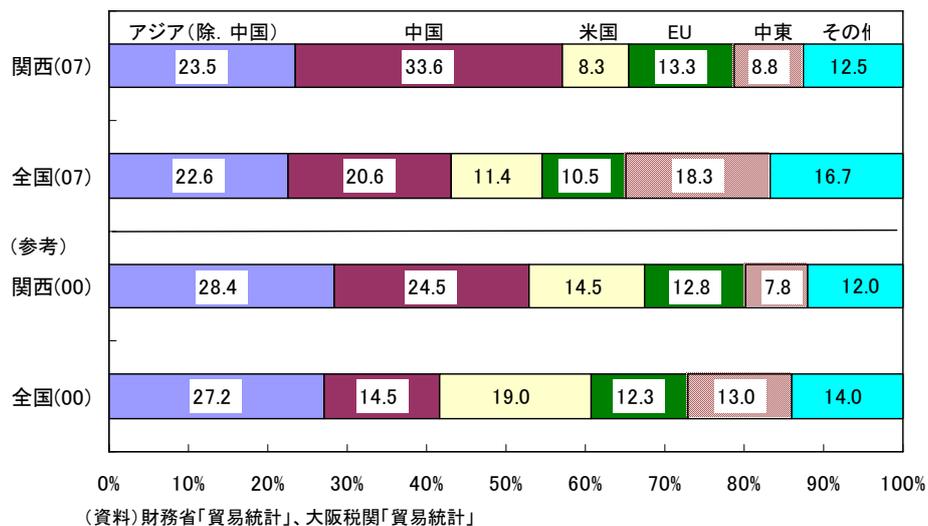
関西の貿易構造は、中国を中心とするアジアへの依存が強く、その経済動向の影響を強く受けることが大きな特徴である。米国経済の減速が鮮明となる中で、中国の対米輸出が鈍化傾向を示すなど、その影響は中国にも及んできている。しかし、個人消費を中心とする中国の内需は依然として好調である。中国・四川大地震は経済に対してマイナスの影響を与えるものの、その程度は限定的とみられ、中国経済は引き続き順調な拡大を続けると予想される。

こうした経済環境を踏まえると、中国を含む対アジア向けの堅調な輸出の下支えによって、関西の輸出が今後大きく落ち込む可能性は小さいと考えられる。したがって、関西経済は、輸出の伸びに支えられ全国に比べると底堅く推移することが予想される。

【参考：輸入構造と最近の動向】

輸入も輸出と同様にアジアへの依存度が高いことが関西経済の特徴である（図表 7）。特に、中国のシェアは大きく 33.6%を占めている。その一方で、中東への依存度は低い。2000年から 2007 年にかけての変化は、中国を除くアジアと北米への依存度が低下する一方で、中国への依存度が高まっている。この傾向は全国レベルでも同様である。

図表 7 関西と全国の輸入相手国シェアの比較



輸入品目については、鉱物性燃料のシェアが低いのに対し、衣類および同付属品、電気機器、化学製品、原料別製品などのシェアは高い（図表 8）。2000年から 2007 年にかけての変化については、食料品や衣類及び同付属品のシェアが低下する一方で、電気機器、一般機械、化学製品、鉱物性燃料のシェアが上昇している。鉱物性燃料のシェアの上昇は最近の原油高の影響が大きいとみられる。電気機器、一般機械、化学製品のシェアの高まりはアジアを中心とする海外諸国の生産能力の拡大や品質の向上が影響していると考えられる。

図表 8 関西と全国の輸入品目の内訳

	関西		全国	
	2000年	2007年	2000年	2007年
食料品	14.7	10.1	12.1	8.3
原料品	6.1	6.0	6.5	7.8
鉱物性燃料	13.7	15.7	20.3	27.6
化学製品	9.6	10.9	7.0	7.5
原料別製品	n. a.	12.2	n. a.	10.1
一般機械	7.5	10.4	n. a.	8.9
電気機器	12.7	14.0	n. a.	12.7
輸送用機器	1.2	1.2	n. a.	3.5
衣類及び同付属品	11.7	8.4	5.2	3.8

(資料) 財務省「貿易統計」、大阪税関「貿易統計」

国別品目別の輸入については図表 9 のとおりである。輸入相手国間について品目シェアを比較すると、関西、全国ともに、食料品や化学製品は米国や EU でのシェアが相対的に大きく、電気機器と衣類及び同付属品についてはアジア、中国においてシェアが大きい。ただし、関西は全国に比べ、米国および EU における化学製品、中国を中心とするアジアにおける衣類及び同付属品の輸入のシェアが一段と大きいという特徴がある。

2000 年から 2007 年にかけての変化については、関西において、一般機械のシェアが米国、EU、アジアのいずれについても上昇している。電気機器については、米国と EU についてはシェアが低下しているのに対し、アジアと中国についてはシェアが高まっている。先に見たように、アジアおよび中国については、電気機器の輸出のシェアが高まっていることを踏まえると、部品を輸出し製品を輸入するという貿易構造が確立していることを窺わせる。

図表 9 国別にみた輸入品目の構成比

[関西] 2007年					[全国] 2007年				
品目	アジア	うち中国	米国	EU	品目	アジア	うち中国	米国	EU
食料品	5.9	5.1	29.3	11.9	食料品	6.1	6.1	19.7	9.2
原料品	2.6	1.3	9.2	4.8	原料品	5.4	1.4	6.8	3.5
鉱物性燃料	6.9	0.5	0.3	0.2	鉱物性燃料	11.4	2.0	1.3	0.6
化学製品	6.1	4.7	21.2	33.6	化学製品	5.6	5.3	13.4	24.1
原料別製品	13.6	12.1	7.3	12.6	原料別製品	12.1	12.4	6.1	9.3
一般機械	12.5	13.3	14.4	15.0	一般機械	12.6	16.6	15.4	13.9
電気機器	21.8	20.1	7.1	6.8	電気機器	22.1	20.4	16.5	9.6
輸送用機器	1.1	1.2	2.4	2.7	輸送用機器	1.7	1.8	9.2	13.7
衣類及び同付属品	14.0	21.7	0.4	3.2	衣類及び同付属品	8.1	15.3	0.3	2.5

2000年					2000年				
品目	アジア	うち中国	米国	EU	品目	アジア	うち中国	米国	EU
食料品	9.3	9.0	31.3	12.9	食料品	9.4	10.7	19.2	9.7
原料品	3.0	2.5	8.9	5.2	原料品	4.2	2.7	5.9	3.4
鉱物性燃料	9.2	1.4	0.1	0.1	鉱物性燃料	12.8	3.9	1.5	0.1
化学製品	4.5	2.7	15.3	30.6	化学製品	3.8	3.0	10.1	21.6
原料別製品	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	原料別製品	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
一般機械	9.2	5.2	7.0	10.0	一般機械	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
電気機器	16.9	10.9	16.3	8.9	電気機器	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
輸送用機器	0.8	0.8	2.4	2.7	輸送用機器	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
衣類及び同付属品	20.7	39.0	0.9	4.6	衣類及び同付属品	11.0	26.6	0.6	3.2

変化[2007年-2000年]					変化[2007年-2000年]				
品目	アジア	うち中国	米国	EU	品目	アジア	うち中国	米国	EU
食料品	-3.5	-3.9	-2.0	-1.0	食料品	-3.3	-4.5	0.5	-0.4
原料品	-0.4	-1.3	0.4	-0.4	原料品	1.2	-1.4	0.9	0.1
鉱物性燃料	-2.2	-0.9	0.1	0.1	鉱物性燃料	-1.3	-1.9	-0.2	0.5
化学製品	1.6	2.0	5.8	2.9	化学製品	1.9	2.4	3.4	2.6
原料別製品	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	原料別製品	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
一般機械	3.3	8.2	7.4	4.9	一般機械	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
電気機器	4.9	9.2	-9.2	-2.1	電気機器	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
輸送用機器	0.2	0.4	0.0	0.0	輸送用機器	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
衣類及び同付属品	-6.7	-17.3	-0.5	-1.4	衣類及び同付属品	-3.0	-11.3	-0.4	-0.6

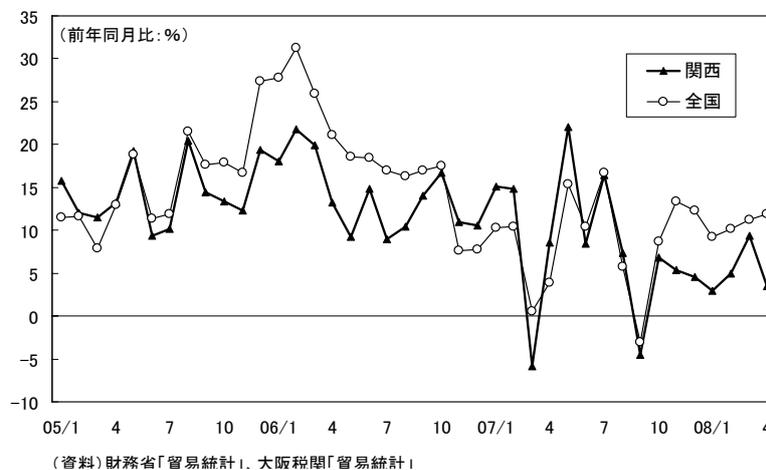
(資料) 財務省「貿易統計」、大阪税関「貿易統計」

足元の輸入については、2005 年後半～2006 年前半および 2007 年末以降、全国が関西を大きく上回る伸びとなっている (図表 10)。特に、直近の 4 月については、関西が 3.5%の伸びにとどまったのに対し、全国は 11.9%と高い伸びとなった。全国の足元の輸入が増加しているのは、主として中東からの輸入が増えていることによる。この大きな原因は原油

価格の高騰である。一方、関西については、中国が輸入を牽引してきたが、中国の食料品や製品に対する安全性の不安から輸入が減少しており、足元では輸入を抑制する要因となっている。

今後の輸入については、原油高に伴う増加は予想されるものの、関西では輸入全体に占める原油のシェアは小さいため、それほど大きな影響を与えないだろう。むしろ、国内景気の減速が鮮明となってきたこと、中国製品の安全性に対する不安が依然として強く残っていることが輸入を押し下げる要因になるだろう。こうした結果、輸入は伸びを今後鈍化させていくと予想する。

図表 10 関西と全国の輸入の伸びの比較



図表 11 輸入総額の推移と相手国別寄与度

